

## アブラハムとロト

### 「なぜロトは遅れたのか」

2010年10月25日 アシェル・イントレーター

アブラハムとサラは決して完全な人ではありませんでした。彼らの結婚生活において、かなり機能不全とも呼べる時もありました。(彼は妻を別の男に差しだし、彼女は彼に別の女を与えました。)しかし彼らは、彼らの弱さにもかかわらず、主の契約に忠実に歩む人々でした。

神はアブラムの名をアブラハムと変え、そしてサライをサラと変えました。両方の名は「H」を加えて名は変更されました。「H」という文字は「YHVH」に二度現れ、ヘブライ語を話す者にとって神の御名を表すものなのです。それゆえ彼らのアイデンティティーは、自身のセルフイメージに神のイメージが加えられたのです。アブラハムは「多くの諸国の父」という意味で、サラは「王女」という意味です。

毎回彼らが自分の名の中にある新しい「神」の御名を語るたび、彼らは神が与えられたご計画に対する信仰を告白したのです。彼ら自身の弱さにもかかわらず、アブラハムは宣言しました。「アダムによって失われた地球を私は再度所有する(ローマ 4:13)。「私は、何百万人もいる各国の民の霊的な父となる(ローマ 4:18、創世記 17:5)。「私の子孫は地上の力ある英雄となる(創世記 15:5、詩篇 11:2:2)。」

アブラハムとサラは自身の信仰と契約に忠実であったことに並ぶ者はありませんでした。彼らは当時その時代そこに生きた人々の間において、比類のない存在でした。彼らはそれに続く世代のすべての信者のひな型となりました(イザヤ 51:1-2、ローマ 4:11、12、16)。彼らは何を持っていたでしょうか。

彼らは「出て行って述べ伝えること」あるいは「伝道」に全力を傾けました。彼らはハラン(訳注:日本語の聖書では「カラン」)で「魂を勝ち取り(訳注:カランの地でアブラハムの集団に加えられた人々を差す)ました(創世記 12:5)。彼らはまた「弟子訓練」に全力を傾けました。すなわち、アブラハムには、訓練を受けた318人の弟子たちがおり、契約のために戦う準備ができていました(創世記 14:14)。アブラハム個人に対しメシアの啓示がありました。イエシュア(イエス)は YHVH の御使いという形を取って、最低 5 回アブラハムの前に現れました(創世記 12:7、15:1、17、17:1、18:1、22:14)。

ユダヤの伝統によりますと、アブラハムは 10 回試みを受けたとあります。各出来事において、彼は従い、犠牲を払う意思があるか試みられました。彼の最大の品位は「わたしが彼を選び出したのは、彼がその子らと、彼の後の家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公正とを行なわせるため、主が、アブラハムについて約束したことを、彼の上に成就するためである。(創世記 18:19)」にまとめるこ

とができます。この特性によって彼は信仰の父となったのです。彼は自分の子どもたちや、自分の集団に属する者たちを主の道へと訓練しました。彼は御言葉を行う者であり、「単に聞く人」ではありませんでした。彼は義と忠実に立っていました。彼は契約の人でした。

ラビたちは、なぜアブラハムがソドムにいる異邦人の救いのために神と討論したのか問いました。彼らの答えは、彼はすでに「多くの諸国の父」としての召命を真剣に捉えていたためだとしています。彼は「諸国のすべての人々は、彼と彼の子孫によって祝福される」というよい知らせを広めるため、彼の歩む道を始めたいと思っていました。(創世記 12:3、18:18、22:18) 彼は、異邦人たちを、自分のものであるかのように愛したのです。

アブラハムの物語を通して、彼の甥ロトとの比較が出てきます。これら二人の男は二種類の信者を表しています。すなわち、一人は契約に真剣に取り組み、もう一人は現世欲に妥協しています。彼らは新約聖書的に言いますと、共に「救われた」信者です。

二人の御使いがロトを救いに破壊が差し迫っているソドムに行った時、ロトはためらい、ぐずぐずしました(創世記 19:16)。ラビたちは、なぜそんなに遅れたのか問いました。ラシイ(注)の解釈には、ロトがぐずぐずしたのは、逃げる前にお金を集めていたからだと述べています。それは正確には正しくないかもしれませんが、そこには考慮すべき重要な点があります。

注: ラシイ(Rashi): 11世紀フランスに生まれたユダヤ教徒でタルムードや旧約聖書の解釈を行った聖書学者。  
**Rashi は、RAbbi SHlomo Itzhaki**(ラビ・シュロモ・イツハキ)の頭字語。

そもそも、ロトはソドムで何をしていたのでしょうか。ロトは義なる人でした。彼はソドムに住んでいる間も、彼の魂は苦しめられていました(Ⅱペテロ 2:7-8)。しかし、彼は妥協したのです。彼は以上に裕福であり、多くの家畜や労働者を所有していました(創世記 13:6)。彼はすべてを失いました。彼は最後にソドムから去った時、お金もなく、家畜もなく、労働者もありませんでした。

ロトの物語からの教訓は、神は、現世欲のある妥協した信者に対しても憐れみをもたれるということです。神は彼を救うことができるのですが(Ⅱペテロ 2:9)、彼が得られたであろうすべての相続財産を失うのです(Ⅰコリント 3:15)。ロトはソドムで名声を得ていました。彼は街の門(注)に座っていました(創世記 19:3)。しかし、彼は神の御前で名誉を失った人物として、歴史上後々までに語られることとなったのです。

注: 街の門に座る: 当時、その街の長老や有力者は、街の門に座って討議をし、また裁きを行っていました。

御使いの訪問者がアブラハムの元にやってきた時、サラはもてなすのを手助けしました(創世記

18:6)。彼女は霊的なパートナーでした。御使いがロトの元にやってきた時、彼の妻が助けている様子がありません（創世記 19:3）。彼女は彼の霊的なパートナーではありませんでした。ロトの労働者、彼の家族、そして彼の妻でさえもソドムのこの世的な快樂に惹かれていました。園において、アダムがイヴに譲歩したように、ロトは彼の妻に譲歩していたようです。

ロトの妻は塩の柱になりました（創世記 19:26）。ソドムは塩になりました。ロトの労働者は塩になりました。ロトの妻はソドム全体の罰と同じ罰を受けたのでした。彼女はその時だけの興味のみで罰されたわけではありません。彼女が振り返ったのは、彼女はソドムのこの世的な価値観の中で人生を送っていたからです。神はその時だけの弱さで人々を滅ぼしません。人生を通した世俗的な生活をする者を滅ぼすのです。

御使いはロトに、山へ逃げよと指示します。私は、彼らはロトに、アブラハムの方向へと指し示したのではないかと思います。ロトは罰を逃れることができましたが、アブラハムの元へ戻ることはできませんでした。彼は自分の救いを握りしめましたが、契約に基づく生活を回復させることはできませんでした。

世界には二種類の「救われた」信者がいます。ロトのように、心の中には義がありますが、妥協の中で生きる現世欲的な信者がいます。彼らは誘惑に苦しめられています。彼らは永遠の命を受け取りますが、報酬を受け取ることはできません。このカテゴリーに入る多くの クリスマンやメシアニック ジューがいるのではないかと憂慮します。

数は相当少ないですが、アブラハムのように歩むことを選んだ別の信者がいます。彼らは契約的価値観に真剣に取り組んでいます。彼らは信仰や忠実さによって乗り越えます。彼らは神の御国の所有するすべてを相続するのです。あなたがたは誰のようになりたいですか。ロトではなく、アブラハムの足跡を辿ろうではありませんか。